

副議長（茅根猛君） 次，6番深谷秀峰君の発言を許します。

〔6番 深谷秀峰君登壇〕

6番（深谷秀峰君） 6番深谷秀峰です。通告に従い，私の一般質問をさせていただきます。まず初めに，平成22年度大久保市長の施政方針についてお伺いいたします。

今回の施政方針では，合併後急激に進んでいる少子化人口減少対策を最も大きな課題ととらえ，総合的計画的な施策展開をしていくと述べられております。予想をはるかに越えた少子化の波は地域の中から子どもたちの笑い声や元気に遊ぶ姿を奪い，地域全体の活気さえも消し去ってしまいます。最近の小中学校の運動会や体育祭に参加しても，子どもの数が少ないためプログラムの進行が非常に早く，場合によっては午前中で終わってしまうのではないかと思えることも多々あります。

少子化人口減少対策というのは，今日の日本が直面している最重要課題であるとも言えるわけであります。これまでは，全体の中の一分野であった少子化人口減少対策を今回の施政方針では真っ先に標記し，しかも将来を見据えた施策を展開していくことが行政の使命であると述べられているので，この件に対しての市長の強い決意が感じられるわけであります。

市長は就任当初より，市民と行政が一体となった市民協働のまちづくりを掲げるとともに，行政力改革にも力を注いでこられました。ここで，今回の方針の中で，市職員提案制度を活用し，政策形成能力を高めるとともに，業務の改善や効果的・効率的な行政運営を図っていくと述べられておりますが，この制度の具体的な内容，そして本当に活発な提案がなされるようにするにはどのようにするのか，またどのような効果が期待できるのか，お伺いいたします。

次に，地域ブランドと交流空間づくりの項の中では，金砂郷，水府，里美地区において地域づくりサポーターを設置し，地域の元気づくりやにぎわいづくりを進めていくと述べられております。平成22年度一般会計当初予算の概要では，雇用創出事業の一環として，予算額486万9,000円で旧町村を単位とした地域振興を図るため，各支所等へ市内それぞれの各地域に精通した地域づくりサポーターを雇用するとありますが，一体どのような内容なのか，具体的な点についてお伺いしたいと思います。

次に，里美牧場の観光振興と土地利用計画についてお尋ねをいたします。

里美牧場は520ヘクタールという広大な面積を擁し，関東最大級の牧場として長い間多くの観光客に親しまれてきました。歴史を振り返れば，古くは江戸時代の新田開発に起源を発する良馬の産地として，戦後は乳用牛，肉用牛の放牧地として大きな役割を果たしてまいりました。時代，時代で試行錯誤を繰り返しながらさまざまな取り組みがなされてきたわけであります。そうした中，平成元年には里美高原リゾート開発を打ち出したものの，バブル経済の崩壊や金融不安等の影響で平成12年計画すべてが断念されたわけであります。そののちは，里美牧場の雄大な自然を最大限に生かした土地利用計画などもなされましたが，合併後は里美牧場の全体構想は宙に浮いた状態であるといえるのではないのでしょうか。ここで，本市における観光行政を推進する上では里美牧場は重要な位置づけと考えられるわけでありますが，この誘客数の変遷や施設の利用者の声などを総合的に判断して現時点での観光資源としての評価はどのようにしているのか，

お尋ねをしたいと思います。また、本年度はプラトーさとみ、小里牧場の大改修を行いました。これを契機により多くの誘客を図っていくための振興策については現在どのように考えているのか、お聞きしたいと思います。

次に、里美牧場はその広大な面積の中で、多くの団体、個人が有効な土地活用をしております。その土地活用によって牧場全体としての景観維持を図っておりますが、現在の土地利用状況はどのようなになっているのか、お尋ねをいたします。そして、今後ともこの里美牧場の景観を維持しながら観光資源としての質を高めていくにはより有効な土地利用を含めた将来ビジョンを考えていく必要があると思われるわけでありますが、この点についてはどのように取り組んでいかなければならないと考えているのか、お尋ねをしたいと思います。

以上ご答弁をお願いいたします。

副議長（茅根猛君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 施政方針の中での職員提案制度についてのお尋ねにお答え申し上げます。

市におきましては、現在も業務の改善、能率の向上を目的といたした職員提案制度があるところでございますが、これがうまく機能しておりませんで、活用されていない状況でございます。今後の市政運営に当たりましては、業務改善の徹底と各職員の政策形成能力の向上が不可欠になってまいりますことから、従来の制度を見直したところでございます。

具体的な内容でございますが、まず1点目は日常の業務における業務改善を1つの柱といたしました。もう一つは政策提案にかかわる提案制度でございます。業務改善につきましては、個人やグループ、職場において日常的に行っている事務の簡素合理化、経費節減、市民へのサービスの向上などについて、提案のあった職場でこれのできるものは即実行いたしまして、効果のあった実践事例を集約いたしまして、庁内に広く集中をしまして、他の職場での活用を図り、市民サービスの向上及び業務の効率的な運営を進めようとするものでございます。

また、政策提案につきましては、既に行っている政策の改善点や重点施策などの市政全般に係る施策につきまして、職員やグループから提案するものでございまして、これにより職員の政策形成能力の向上、施策への反映を行っていきたいと考えているところでございます。

なお、業務改善、政策提案のいずれも積極的な提案が行われますように、制度の簡略化、そしてまた、顕彰制度等も考えまして、応募意欲を高め、実効性のある制度としてまいりたいと考えているところでございます。

改善提案あるいは政策提案等につきましては、常日ごろより、それぞれの担当している業務において、業務の基本的な根底となる目的を意識した上で、日常疑問の目を持って仕事をする事によって、その時点から改善は生まれてくるということを職員にも話しておりますことから、これを具体的な政策提案制度に結びつけて実行したい、こう思っているところでございます。

次に、地域づくりサポーターについてをお答えいたします。

地域づくりサポーターは、国の緊急雇用創出事業交付金を財源といたしまして、金砂郷、水府、

里美の各支所にそれぞれ2名配置をするものでございます。地域づくりにつきましては、これまで地域資源を生かしながら、各地域でさまざまな活動を行っているところでありますが、地域内での活動が中心でありますこと、そしてまた、地域間交流をもっと活発化をさせる必要があります。それらによりまして、交流人口を増やしながら経済効果を生み出すためにはそれぞれの団体や地域代表の方との協議の場を設けまして、連携を深めながら推進していく必要があると考えます。このようなことから、地域づくりのコーディネート役を行うということが大きな目的でございます。地域資源を活用しました新たな地域振興策を提案し、その具現化を進めてまいりたいと考えます。

具体的には、各地域で行っている地域づくり事業についてのさまざまな手段でありますマップの作成ですとか、先進地におけます事例等の収集あるいはコーディネート構想の素案づくりなどをまず手始めに行ってまいりたいと思います。また地域の核であります支所等を活用いたしましたミニギャラリーや地域資源紹介コーナーなどを設置していきたいと考えております。地域サポーターを設置することによりまして、地域の元氣やにぎわいがつくられ、せっかく市民の皆さんが地域でそれぞれ何とかしようということで、活動を開始されてきておるわけですから、その後押しをいたしまして、活気にあふれた地域づくりができるように進めていきたいというそのような考えから、当地域づくりサポーターを配置することとした次第でございます。

副議長（茅根猛君） 産業部長。

〔産業部長 赤須一夫君登壇〕

産業部長（赤須一夫君） ご質問の里美牧場の観光振興と土地利用計画についてお答えいたします。

1点目の里美牧場エリアの観光資源の現状評価と誘客増に向けた振興策について。

里美牧場は自然環境、クリーンエネルギーへの着目度が高まる中、エコパック、自然公園的な機能を有しております。また、観光資源としての存在価値は大きな可能性を秘めており、産業観光の振興、交流ビジネスにおいて大いに期待できるエリアであると考えております。このような観点から、今年度減少傾向にあるプラトーさとみの誘客数を増やすため、大規模な改修工事や小里牧場の再整備計画を実施しているところであります。プラトーさとみの改修工事の進捗状況は工程表のとおり順調に施工しており、工期の3月21日までには完了の予定となっております。当施設のリニューアルオープンが4月中旬の予定で、オープンに向け当施設の指定管理者である財団法人里美ふるさと振興公社はレストランメニューの開発や自然交流体験メニュー、滞在型メニューの充実、宣伝周知方法などについて内部協議を行っております。ハード面の整備とあわせて、ソフト面の充実を図り、平成20年度1,700名弱まで落ち込んだ宿泊者数を平成13年当初の宿泊者数3,500名くらいまで回復するよう誘客活動を積極的に取り組んでまいります。

次に、小里牧場の再整備であります。現在、繁殖元牛の一部導入とあわせ、次年度建設する飼育舎等の実施設計が完了したところであります。この整備については循環型農畜産振興を目的としていますが、牧場の放牧地、採草地の原野化を防ぎ、観光資源である里美牧場の現景観の保全にも寄与しております。

また、里美牧場の自然を守る取り組みとしましては、平成15年に森づくり隊が結成され、原野の刈払い、樹木の植栽、肥培管理、エリア内ハイキングコースの整備、ベンチ・案内板等の設置を行っております。毎年600人から700人の参加があり、小学生、中学生、高校生の林業体験、市内外のボランティア会員250名が交流を主体に共同で里美牧場の景観保全活動を行っております。里美牧場の観光資源であるプラトーさとみや共同模範牧場、小里牧場、風力発電施設、県の施設である里美野外活動センター、協働の森づくり会場、ハイキングコースなどを結びつけ、里美牧場エリアのさらなる誘客活動を積極果敢に展開してまいります。

次に、2点目の土地の利用状況についてであります。里美牧場の面積は約520ヘクタールです。その約半分を団体及び個人に貸し付けをしております。主な土地の利用としまして、小里牧場に約66ヘクタール、県酪連の共同模範牧場に約65ヘクタール、プラトーさとみに約9.5ヘクタール、県立野外活動センターに約28ヘクタール、協働の森づくりに約5.3ヘクタール、バイオマスリサイクルセンターに約3ヘクタール、風力発電施設に約3ヘクタール、その他採草・放牧地及び景観整備エリアとして25ヘクタール、また県行分収造林に38ヘクタール、森林組合分収林約9.6ヘクタールとなっております。残りの約半分253ヘクタールにおいては、山林が主で財産区が管理をしております。

次に、3点目の土地利用計画についてであります。生産牧場としての機能を基調とした原風景の保全に努めることを最優先にしつつ、今後の土地利用計画にあつては、主管部署および財産区等々連携を図り進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

副議長（茅根猛君） 6番深谷秀峰君。

〔6番 深谷秀峰君登壇〕

6番（深谷秀峰君） 再質問いたします。

まず、市職員提案制度についてお聞きしたいと思います。私はこの制度をフルに活用して少しでも職員のやる気を引き出していきたいと願うものであります。

思い返せば、昭和54年、当時の平松大分県知事が提唱した一村一品運動がきっかけとなり、全国各地で村おこし、町おこしの気運が盛り上がりました。その中には一過性で終わってしまったもの、またその運動をきっかけに地域が大きく発展したものなどさまざまあります。当地においても、合併前の各自治体でいろいろな村おこし、町おこしの取り組みがなされてきました。当時を振り返ると、そのさまざまな取り組みの仕掛け人はそれぞれの自治体の行政職員であったり、また住民とともに汗を流したのも当時の行政職員だったような気がいたします。当時の行政職員にはやる気と情熱があったと、今振り返るとそう思います。現在の本市の職員の方で日常の業務に疑問を感じながら仕事をしているとするならば、ぜひともこの市職員提案制度を利用して市長に対して提案をしていただきたい。この場をかりてそう叫びたい気持ちです。

そして、市長にお聞きしたいのは、もしそうした職員からのいい提案がなされた場合は、私は大々的に評価してあげてもいいのではないかと。これについて市長の考えをお聞きしたいと思います。

次に、里美牧場の観光振興と土地利用計画について、2点再質問いたします。

今回、この質問を提示したときに大きな壁にぶち当たりました。それは何かというと、里美牧場内の分野分野の質問ならば、それぞれ主管課が決まっており、簡単に答弁をしてくれるのですが、里美牧場の全体像、しかも将来ビジョンを問うた場合に一体どこの課が答弁書を書くか、そういう壁にぶち当たりました。そこで、市長にお聞きしたいと思います。今後、里美牧場全体の構想、そして将来ビジョンを立てる上で、一体本市の中では行政機構の中で、どこが主管課となるのか、もう一つ、現在の里美牧場のすばらしい景観を維持発展させていく上で、当然土地利用計画も含めた将来ビジョンを構築していかなければなりません。そうした場合、現在里美牧場内の土地を利用している各種団体、そして個人、地域住民を巻き込んだ連絡調整の場が必要なのではないかとそういうふうに考えるわけですが、そうした連絡会議等の設置をぜひともお願いしたいと思うわけですが、これについての市長のお考えをお聞きしたいと思います。

以上3点を再質問として私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

副議長（茅根猛君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） まず初めに、職員の提案制度に関して、先ほど若干言葉が足りなかったかもしれませんが、よい提案につきましては、例えば年末表彰制度ですとか、そういうことも取り入れながらきちっとそれを顕彰していきたい、そういうふうに考えているところです。そして、先々になりますと、今の職員の給与体系についても評価制度が取り入れられることになってまいります。そういう中にも将来は、反映をさせていく必要があると考えているところでございます。

次に、里美牧場に関して2点のご質問でございます。里美牧場はご案内のとおり、全体を含めまして小里財産管理区が議会を形成して、その中で管理をしているところでございます。しかし、ご指摘のとおり、あの牧場を貸している団体は非常に多い団体がありまして、現在のところ連絡協議会等はありません。したがって、全体像をまとめていく上では、ご提案がございましたように、連絡協議会を作る必要があるというふうに考えます。また、主管課におきましては、今事業の内容そのものというよりは、小里財産区の議会を管掌しておりますのは、里美支所の総務課でございます。そして、これからそれぞれの各支所の総務課における業務の中に地域づくりに関しての取りまとめ部門的なことを業務として加えていきたいというふうに今考えておりまして、まずはこの主管課としては財産区を管理している里美の総務課を主管課として当てていきたい。そしてまた、事業の内容等によっては産業観光課等が絡んでくるわけでありまして、元締めは総務課に置きたい、そういうふうに考えているところです。